



実用新案登録願

昭和52年3月3/日

特許庁長官 片山石郎 殿

1. 考案の名称

密閉容器

2. 考案者

住所 埼玉県北葛城郡荒川町上内4-9-8

氏名 佐藤光弘

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都新宿区市谷加賀町1-12

名称 (289) 大日本印刷株式会社

代表者 北島織衛

4. 代理人

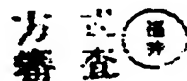
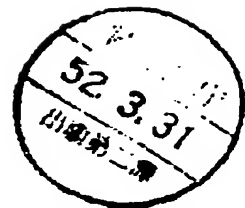
住所 〒162 東京都新宿区市谷加賀町1-12

大日本印刷株式会社内 Tel. 266-2570

氏名 (7258) 弁理士 小西淳美

5. 添附書類の目録

- | | | | |
|-------------|----|---------|----|
| (1) 明細書 | 1通 | (2) 図面 | 1通 |
| (3) 願書副本 | 1通 | (4) 委任状 | 1通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 | | |



52 040230

52-136944

明 細 書

1 考案の名称

密閉容器

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 液体を充填密閉したブロー成形法による容器において、当該容器は膨出頸部を備え、かつ当該膨出頸部は他の部分よりも薄肉に形成して針様の物体で穿孔しやすくなるようにした密閉容器。
- (2) 密閉容器は目薬容器であり、膨出頸部の下方に雄ネジを備え、かつ当該雄ネジと係合する雌ネジを有すると共に天井には上記膨出頸部を穿孔する針を有する蓋を備えてなる実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の密閉容器。
- (3) 密閉容器はアンプルである実用新案登録請求の範囲第(1)項記載の密閉容器。

3 考案の詳細な説明

本考案はブロー成形法によつて製造される容器であつて、内容液を充填した後は外氣と完全に遮断してなる容器に関するものである。

一般に外用薬、内用薬等の液体医薬品はガラスビンに充填されている。例えば目薬液はガラスビンに入れられ、その注出のためにびんとは別体の注出口が装着されその上からネジ込み式の蓋が被せられている。従つて内容液の密封性を完全に行なうことができず、薬局等で保管中に変質してしまうおそれがある。

また注射液はガラス製のアンプルに充填されている。従つてこの場合は密閉性は完全に保たれるものの、アンプルの頸部を折つて開口し注射器で液を吸い上げるとき、ガラスの細かな破片まで吸い上げてしまい、人^体内にまで注射液と共にガラス片を注射してしまうおそれがある。

本考案は以上のような従来の液状医薬の容器が有する欠点を解消するためになされたもので、容器をブロー成形して口部を他の部分と一体の樹脂であらかじめ密閉しておき、内容液を底部から充填した後はその部分を融着してしまつて内部を外気と完全に遮断できるようにし、さらには使用にあつて開口しやすいように注出口を形成すべき注出頸部を薄肉に形成してなるも

のである。

以下図面を用いて本考案の実施例につき詳細な説明を行なう。

第1図乃至第3図は目薬液の容器10を示し、第1図において容器はブロー成形法によつて膨出頸部12、首部14、胴部16及び底部18が一体的に成形されている。

底部18はブロー成形完了の段階ではそこにチューブ体（図示せず）が付属しており、チューブ体から目薬が充填された後はそこで融着され余剰部は切落される。首部14には雄ネジ20が設けられており、そこに蓋22が被せられている。

蓋22は胴部16と天井26を備えており、胴部16内周には前記雄ネジ20と係合する雌ネジ28が形成され天井26には前記膨出頸部12に対向する錐体形の針30が蓋22と同一材質で形成されている。

また、胴部16の下部には環状溝で区画された切除帯32が設けられており、この切除帯の幅分だけ前記針30は膨出頸部12から隔つてい

る。

切除帯 32 の始端には切除を行ないやすくするためつまみ片 34 が設けられている。この切除帯 32 は蓋 31 とは別体としてリング状に形成し、蓋と容器との間に単に介装しておいてもよい。

第 2 図は第 1 図示の状態の蓋 31 から切除帯 32 を除去し、蓋をさらにネジ込むことによつて膨出頭部 13 の穿孔を行なう状態を示している。本考案においては膨出頭部 13 をブロー成形機ヤスリがけ、パフ加工することによつて他の部分よりも薄肉にかつ大きな湾曲面もしくは平坦面に形成している。

従つて第 2 図示の如く穿孔する場合、たやすくその作業を行ないうると共に針 30 が樹脂のよりの柔らかい物質でできていても、欠損したり折れ曲がつたりすることがないのである。

また、膨出頭部 13 を薄くしているために第 3 図の如く針 30 により穿孔した場合、孔 36 の周辺はすり鉢状にくぼむこととなり、目薬をさすときそのすり鉢部のおかげで液滴 38 ができ

やすいようになる。

次に、本考案をアンプルに適用した場合について第4図にもとづいて説明する。

このアンプル40もブロー成形によつて製造され、底部42にはチューブ状の充填口（図示せず）があらかじめ設けられており、そこから注射液が充填された後は融着され余剰部は切除される。

そして膨出部44はヤスリがけ、パフ加工などによつて薄肉状にかつ上面は大なる曲率半径を有する面に形成され、注射針がそこに突き立ちやすいよう工夫されている。

なお、この場合くびれの部分46で上部48を折る必要がなければアンプルの形状は太鼓形、円柱形、円錐台形にしてもよい。

さて、本考案は上述の如く、液体を一旦充填密封した後は外界と完全に遮断できるものであり、しかもその開封に際しては蓋に装着した樹脂製の針とか、注射針とかの強度の低いものによつても穿孔できるよう工夫してなるから、医薬品に適用して有効である。

また、本考案を目薬容器に適用した場合はその穿孔に際してすり鉢形のくぼみを形成しうるので、液は孔近辺にて水玉を形成しやすくなり、目に薬を滴下するについて非常に都合がよくなる。

さらに本考案をアンプルに適用した場合には従来のごときガラス片が注射液に混入するような不具合は皆無となり、またくびれなどもなくして形状を簡素化しうる等種々の効果を奏することができるものである。

※ 図面の簡単な説明

第1図乃至第3図は本考案に係る容器の第一実施例を示し、第1図はその開封前の部分切欠正面図、第2図は開封後の部分切欠正面図、第3図は開口部から内容液を滴下させる状態を示す部分拡大断面図である。

第4図は第二実施例を示す部分切欠正面図である。

10.....目薬容器	12.....膨出頭部
22.....蓋	24.....天井
30.....針	36.....孔

38.....被 滴

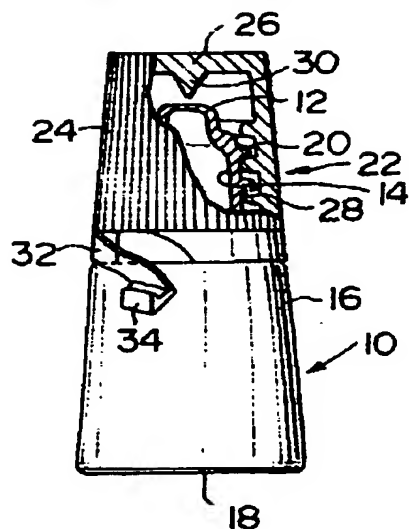
40.....アンプル

44.....彫出頭部

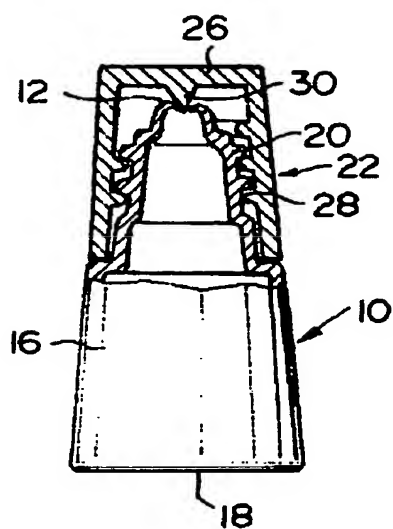
実用新案登録出願人 大日本印刷株式会社

代理人 弁護士 小 西 淳 美

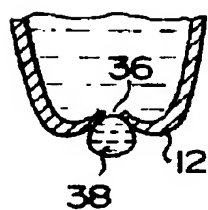
第 1 図



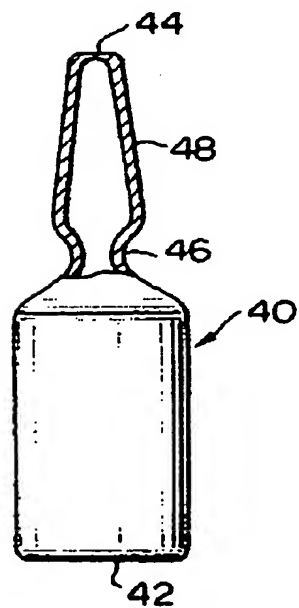
第 2 図



第 3 図



第 4 図



136944